

タイトル	中国麗江における観光産業の変遷と持続可能な観光開発
著者	蒋, 蕾
引用	北海商科大学論集, 8(1): 101-125
発行日	2019-02

中国麗江における観光産業の変遷と持続可能な観光開発
**The Change of Tourism Industry and the Sustainable Development of Tourism
Industry in Lijiang, China**

蒋 蕾 JIANG, Lei

要旨

1995年から現在まで、観光産業は麗江の主要産業として麗江の社会経済の発展を促進した。麗江における観光産業に関する研究はさまざまな角度から課題が指摘されているが、歴史的な観点から麗江における観光産業の変遷と持続的観光開発に関する研究はまだ多くない。本研究では Butler の「観光地ライフサイクル・モデル」に基づいて 90年代から現在までの麗江における観光産業の変遷を考察するとともに、持続的観光開発を考察するための概念モデルの観点から、麗江における持続的観光開発に向けた課題を考察した。これらの考察を通じて、持続的観光開発へと導くためのインプリケーションを見出した。

キーワード

麗江、観光産業、持続可能な観光開発

Abstract

From 1995 to now, tourism industry as the pillar industry of Lijiang greatly promoted the economic development of Lijiang. So far, there are many researches on tourism in Lijiang city. However, from the perspective of history, there are few researches on the change of tourism industry and the sustainable development of tourism in Lijiang city. Based on Butler's tourism life cycle model, this study investigates the development and changes of Lijiang tourism industry since the 1990s. At the same time, in order to investigate how to realize the sustainable development of tourism in Lijiang, this study starts from the concept model of sustainable development of tourism and investigates the existing problems of Lijiang tourism. Finally, the author puts forward some suggestions to promote the sustainable development of Lijiang tourism.

Keywords

Lijiang, tourism industry, sustainable development of tourism

1.はじめに

観光産業と現地経済について論及する場合、やはり歴史的かつ動的な変化の接近についても見落とすことはできない。観光はその立地や衰退過程においても地域経済の盛衰や歴史・文化的な変遷などと切り離すことのできない関係性を有している。観光地の形成過程や発展過程を歴史的かつ動的に見ると、交通網の整備や発展と密接な関連性を有している。さらに、最近の個人志向的な観光行動に視点を移すと、移動手段の変遷によって形成された環境変化も指摘することができる。また、最近になって各地で盛んに行われている地域づくりやまちづくりなどの取り組みも過去の産業の遺物などを観光資源へと利活用したものが多く¹⁾。このことも観光立地と当該地域の鉱工業や農業、各種産業、さらに都市などの歴史的発展過程、すなわち動的な立地過程と密接な関係があることを示している。制度・政策の変化、地域の産業の変遷の中で文化性や歴史性などの新しい価値や魅力が蓄積されることによって、観光産業も変化する。このため、観光産業の変遷と現地経済の関係を考察することは非常に重要である。

麗江の観光産業は90年代から始まり、2015年まで20年余りの間に、ゼロから急速に発展してきた。この20年間の間に、麗江における飲食・宿泊業、交通運輸業、小売業や不動産業などの観光関連産業と観光政策、雇用、地域インフラ整備、娯楽施設、住民の生活と意識などさまざまなことが変化した。麗江における観光産業の役割、位置づけと地域経済との結びつきも観光産業の発展とともに変遷した。

一方、麗江における観光産業に関する研究はさまざまな角度から課題が指摘され、貴重な報告や重要な研究がされているが、麗江における観光産業の歴史に関する研究はほとんどない。しかし、持続的な地域観光開発を実現するためには、歴史的な観点から、麗江における観光産業の変遷を把握し、現在にまで続く課題・問題を明らかにしなければならない。それらの課題・問題を考察し、持続的観光開発へと導く示唆を見つけていくことが重要である。

そのため本稿では、まず、観光の変遷についてButlerの「観光地ライフサイクル・モデル」の観点から考察する。次いで、持続的観光開発に向けた課題について「概念モデル」を提示した上で考察する。これらの考察を通じて持続的観光開発へと導くためのインプリケーションを見出すことが目的である。

2.観光の変遷に関する考察

2-1 考察のフレームワークとしての観光地ライフサイクル・モデル

観光地域は、観光旅行者を引きつける多様な観光資源を開発、提供し、それらを通してそれぞれ特有の歴史を形成している。このような観光地域のほとんどが（とくに持続的観光開発、適止収容量の視点を問題にしない場合）、大量の観光旅行者の動向を観光開発や観光事業の運営・管理の際の主要な目安にしている。このような観光旅行者（観光需要）の動向に注目して観光地域の推移を辿ると、そこには生産物のライフサイクルに似た変遷が見られるようだ。このような観光地域の変遷を、この生産物のライフサイクルを手掛かり

にしてモデル化し、観光旅行者の特性や観光地域の空間利用の変容を論じたのが、観光地理学者の Butler である²。Butler が提出した観光地域におけるライフサイクル・モデルは、観光開発に関心のある人々に多くの示唆を与えており、日本、中国でもしばしば引用される重要な文献とみなされている。観光地によって、ライフサイクル段階の特徴はそれぞれ違うものの、概ねそのパターンはどの観光地にも適合するという仮説を呈示した。ここでは、麗江の特徴を前提として、Butler のライフサイクル・モデルを参考として、時間軸における麗江観光産業の変遷を考察する。

観光地のライフサイクルは、Butler によれば、次のような6つの段階に区分される³。すなわち前観光地段階 (exploration stage)、関与段階 (involvement stage)、発展段階 (development stage)、整理統合段階 (consolidation stage)、停滞段階 (stagnation stage) そして衰退段階 (decline stage) の6段階である。他方で、観光地の再生対策 (rejuvenation) が取られるかもしれない。それを概念的に表したものが図1である。また、それぞれの段階における当該観光地の状況ないし状態がどのようなものであるかは、次のように説明することができる。

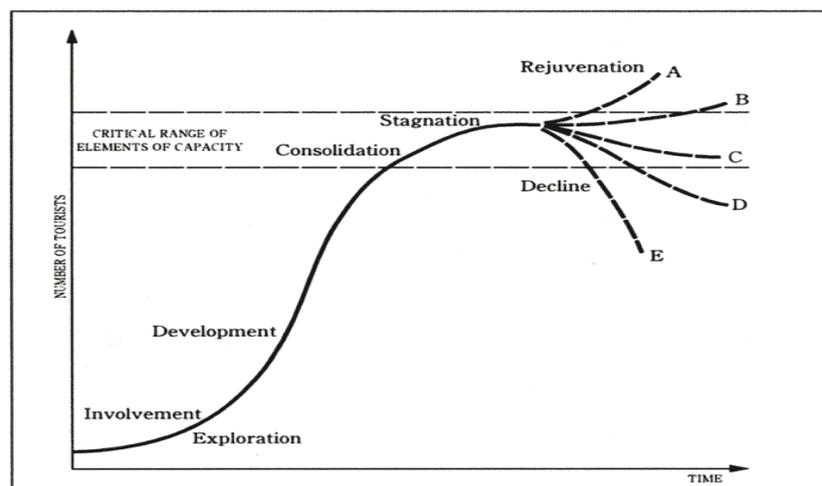


図1 Butler の観光地ライフサイクル・モデル

資料：Butler. R.W. The Concept of a Tourist Area Cycle of Evolution

前観光地段階：少数の冒険的な旅行者によって、ある地域への訪問が開始されるが、そこには必ずしも旅行業のような産業はほとんど介在せず、個々人の興味に基づいて各人が個々に手配・予約をし、当該目的地を訪れるといった状況である。また、訪問者と当該地域の種々の環境も破壊されることはない。関与段階：この段階は、訪問者と地域住民との間の関係は望ましい方向へ向かい、地域自体が訪問者の積極的な誘致や施設の建設に着手し始め、観光地としての機能を備えつつある段階である。他方、ツーリストの誘致等にともない、公共部門に対してはインフラストラクチャーの整備・拡充といった圧力がかけられる段階でもある。発展段階：この段階は、当該観光地までのアクセスの改善・宿泊施設の増設・観光対象の整備拡充そしてマーケティング活動等により、ツーリストが急激に増

加する段階であり、当該観光地にとって観光が市場として意味をもつ段階である。他方では、急激な観光客の流入により、観光施設や宿泊施設等の過剰利用やその汚染・破壊が顕在化し始める段階でもある。整理統合段階：この段階は、急速な観光市場の拡大を背景に、種々の宿泊施設・観光対象の無計画ともいえるような創造により観光地としての魅力が低下し、観光客の増加率が徐々に低下しつつあることを反省し、観光地としての機能を再検討し、整理・統合される段階である。停滞段階：この段階は、当該観光地への訪問者数は増加傾向を示すが、その増加率はほぼ横這か減少に転じ、観光客のほとんどがリピーターによって占められ、そのために訪問者の訪問シーズンの拡大努力や、観光産業による市場の拡大策が取られる段階である。と同時に環境・社会問題そして経済的問題が深刻になりはじめる段階でもある。衰退段階：この段階は、そのまま推移するに任せておけば、究極的には観光地としては意味をなさないようになってしまい、多くの訪問者は新たな観光地に取られてしまい、当地への訪問者は日帰り客と週末だけ訪れるほんのわずかな人々に限られ、観光客用の施設は他の用途への転換が進むという段階である。

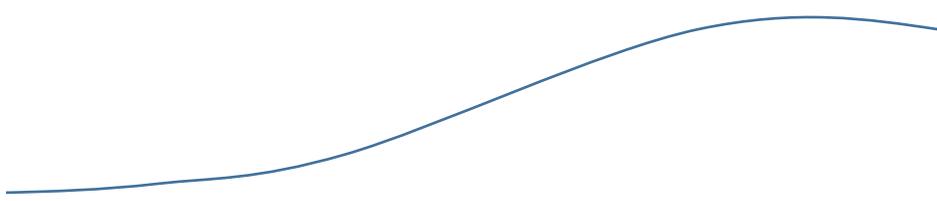
停滞段階に入った観光地は、通常当該観光地の再生へ向けて、公共部門と民間部門両者による何らかの再開発の計画とその実施がなされるであろう。そしてそれが当該観光地の魅力回復につながるならば、当該観光地は、「衰退段階」へと入ることを阻止することが可能であり、持続的な発展への道を歩むことも可能であるかもしれない。

2-2 考察

2-2-1 観光地ライフサイクル・モデルからみた変遷区分の考察

1995年から現在まで、麗江における観光産業は供給側の交通機関、関連施設などと需要側の観光客層、価値観などが時代と観光産業の発展に従って変化した。1995年から2003年の間に、麗江は観光施設の提供、観光客専用の施設の供給に関わりを持つようになった。政府、企業、民間が積極的に観光事業を行い、観光に関わる仕事に従事する住民の人数も増加している。1998年に直接観光産業に従事する人数は1998年の7000人余りから2002年の37000人余りに増加した。この段階では観光客を引きつけるための宣伝活動が行われ、観光客をはじめて受け入れる基本的な市場（a basic initial market area）が明確に形成されてくる。この期間は麗江観光ライフサイクルの関与段階であると考えられる。2004年から2012年に、麗江における観光客入込数は急速に増加している。政府は観光産業の宣伝、観光産業の優位性を補完することを中心としてさまざまな制度を策定した。また、この段階では観光不動産など比較的大規模な観光施設を開発され、観光産業が地域の主要産業になった。この段階は麗江観光産業の発展段階だと言える。2013年から現在まで、観光客の入込総数が依然増加を続けて地元の人数を凌ぐとしても、その増加率は減少することになる。観光地の収容力は限界に近く、それと関連する環境的、社会的及び経済的な問題の限界に達する。この段階は観光地としての機能を整理・統合される段階である。以下は段階別で麗江全体的な観光の動き、観光産業の動き、観光政策の変化などを具体的考察する。

表1 麗江の観光地ライフサイクル

ライフ サイク ルのイ メージ			
	①関与段階	②発展段階	③整理統合段階
	1995年～2003年	2004年～2012年	2013年～現在
観光客の積極的な誘致や観光施設の建設に着手し始め、観光地としての機能を備えつつある段階である。1995年から2003年の間、麗江の入込観光客人数は84.5万人から301.50万人に増加した。そのなか、海外の観光客は3.05万人から2002年に14.84万人に増加した。2003年にはSARSにより、観光客数が減少した。また、3つの世界遺産が登録されたことも、この期間中において大きな革新であった。この間に、観光産業を中心とする第三次産業のGDPは第二次産業を超え、麗江の支柱産業になった。麗江地域経済への貢献度も大幅に上昇した。	アクセスの改善、宿泊施設の増設と観光資源の開発を積極的に行う段階である。1996年に、麗江の星級ホテルは4軒しかなかったが、2012年には、187軒に増加した。観光スポットは麗江古城と玉龍雪山2箇所から22箇所に増加した。2005年に、国家西部大開発の重要プログラムとしての大理—麗江鉄道が建設し始めた。2009年9月、大理—麗江鉄道が開通した。大理—麗江鉄道の開通は、麗江及び麗江周辺地域の観光産業を促進した。2006年10月に、大阪からの観光チャーター機が麗江空港に着陸した。2012年5月に、麗江—香港の直通便が開通した。同年9月、麗江—バンコクの直通便も開通した。この海外から麗江までの直便の実現は、麗江を訪れる海外観光客、とくにアジア観光客の新しいトレンドを推進した。	宿泊施設、観光対象の無計画、マスコミへの対応不足により、観光地としての機能を再検討する段階である。現在、麗江は高速道路、鉄道、航空、水路による立体的交通ネットワークを形成した。このインフラ整備も含めた輸送手段の高速化、また国家福祉、政策の支持と生活が豊かになっていく国民自身の要求から、「観光の大衆化」が進んで、観光客層も広がった。そのため、観光客同士の間での矛盾、観光客の不合理や過度な要求が増加している。また、民宿・ホテル、レストランやお土産店舗などの無計画の増加は供給過剰を引き起こした。2016年の、古城内の民宿は2000軒以上である。「無証」（営業許可証、衛生許可証なし）の飲食・宿泊施設も数多くある。	

資料：筆者作成。

2-2-2 変遷区分からみた観光産業の発展

1) 関与段階（1995年～2003年）における観光産業の動き

(1) 全体的な観光の動き

表2 1995年～2003年麗江における観光産業の発展

年	観光客総人数		国内観光客		海外観光客		観光総収入 (億元)
	(万人)	増加率	(万人)	増加率	(万人)	増加率	
1995	84.50		81.00		3.05		3.30
1996	110.60	30.90%	106.00	30.90%	4.59	50.50%	3.00
1997	172.80	56.20%	168.00	58.50%	4.84	5.40%	9.50
1998	201.30	16.50%	195.80	16.50%	5.46	12.80%	10.40
1999	280.40	39.30%	273.50	39.70%	6.90	26.40%	15.90
2000	290.40	3.60%	281.20	2.80%	9.22	33.60%	18.70
2001	322.10	10.90%	311.50	10.80%	10.52	14.10%	22.70
2002	337.50	4.80%	322.70	3.60%	14.84	41.10%	23.40
2003	301.50	-11.00%	293.20	-9.10%	8.24	-45.00%	24.00

資料：『麗江統計年鑑』2000年—2004年各年版より。

1995年から2003年まで、麗江における観光産業の発展を示したのは表2である。表2が示すように、1995年から2003年の間、麗江の入込観光客人数は84.5万人から301.50万人に増加した。観光総収入は僅か3.3億元から24億元となった。

1994年10月、雲南省政府は麗江で「雲南省西北観光計画会議」（滇西北旅游規劃会）を開催し、「旅游大省計画」を策定した。この計画では、雲南省西北地区を「重点観光開発地区」とし、なかでも麗江を東南アジア・アジア太平洋地区における国際観光都市として重点的に開発することが示された。この会議の席上では麗江古城を世界遺産に申請することが決定された。この会議によって、麗江における観光産業の発展は本格的に始まった⁴。1996年2月3日に、麗江をマグニチュード7.0の地震が襲った。麗江古城も被災し、一部の家屋が倒壊した。一方、震災に伴う国際的な支援や報道の結果、それまで知名度のなかった麗江古城が国内外に広く知られることになった。1997年12月4日、歴史的都市景観とそれを構成する建造物群、都市の地理・歴史的背景が評価され、麗江古城はユネスコ世界遺産委員会により世界遺産リストへの登録が決定された。それによって、麗江の知名度は一層高くなり、来訪する観光客も急激に増加した。1997年に、麗江の入込観光客数は172.8万人に増加し、1995年と比べ、倍以上も増加した。観光総収入も9.50億元へと増えた。1998年には麗江の観光客入込数が201万人であり、前年より16%増加した。観光の総収入は10億元に達した。1999年、雲南省省都の昆明で世界園芸博覧会が行われ、麗江はサブ会場として麗江を訪れる観光客が急増した。1999年の観光客の入込数は280.40万人になり、昨年より39.3%増加した。外国人の観光客は6.90万人であり、増加率は26.4%であった。観光総収入は15億9000万元で昨年より51%増加した。2001年に、麗江の入込観光客数が322.07万人、このうち国内の観光客は311.53万人、海外観光客は10.52万人であった。2003年には、SARSが観光産業に大きな影響を与えた。観光客数は2002年より11%下がり、301.5万人であった。2003年7月2日に、世界遺産委員会は「三江並流」を世界自然遺産に登録することにした。麗江市に所属する九十九龍潭、黎明観光地は三江並流の核心区に位置している。また、2003年8月30日、ポーランド・グデーで開催されたユネスコ世界記憶遺産委員会の第6回会議で、麗江納西東巴古籍が世界記憶遺産に登録された。このように、麗江は3つの世界遺産を持っているユニークの都市となった。

(2)観光産業の動き

1992年12月に、雲南省政府は、麗江における玉龍雪山の観光リゾートの開発を批准した。このことは麗江の観光開発が本格的にスタートしたことを示す。1993年4月8日、麗江旅游事業管理委員会が設立された。同年、省レベルの「麗江玉龍雪山省級観光区管理委員会開発会社」が成立した。会社が設立して以来、徐々に玉龍雪山観光エリア内のインフラ建設を補完し、規模も拡大した。また、業務も日増しに拡大し、中国企業と外国企業との合弁の云杉坪観光ロープウェイ有限会社や白鹿旅行会社などの中堅企業が創設された。1995年5月24日、納西東巴文化博物館の一部としての納西民俗院が建設された。1996年12月31日までに麗江は二つの観光リゾート、3つの観光開発会社、11社の旅行会社、

2つの観光自動車会社と50台余りの観光バスが存在した。また、麗江市は16軒の海外客対応のホテルを建設した。その内、3つ星のホテルは格蘭ホテル、黒白水ホテルの2軒がある。観光商品の専門店が28店であった。金沙陶、木彫り、木製工芸品、東巴のタペストリー、東巴ろうけつ染めなどの新しい観光商品を開発、冬虫夏草、天麻（てんま、中薬）など伝統的なものも再開発した⁵。1998年1月に、雲南省の最初の5つ星ホテルである官房ホテルが麗江においてオープンした。1998年12月31日まで、ホテルは41軒に増加した。その内、星級ホテルは28軒であった。また、麗江地区旅游局は麗江観光産業の発展に応じて、新たな旅行会社、麗江香格里拉旅行会社、麗江風情旅行会社、麗江雪鷹旅行会社、麗江玉雪風光旅行会社、麗江大自然旅行会社と麗江老君山旅行会社6つの旅行会社を創設した。こうして、1998年には、旅行会社は17社となった。ツアーガイドは570人、観光バスは450台に増加した。また、直接、観光産業に従業している人数は7,000人余り、間接従業員は3.8万人であった。1998年には雲南省徳宏州にて玉を扱う店を営んでいる福建の経営者108戸が全て麗江古城に移転した。2002年になると、星級ホテルは73軒、旅行会社は37軒に増加し、ツアーガイドは2420人となり、観光産業における直接的な従業者⁶は3.7万人、間接的な従業者は約8万人となった⁷。

1996年以降、観光入込数や観光収入が急増し、麗江政府も観光振興策を推進し、古城内建物内部の現代化や商業利用を奨励したことなどを背景に、麗江古城内の商業活動が活発化、建築の観光商業利用が増加した。古城内の観光者向け商業も急激に増加した。1998年12月24日の初調査では、古城内の民宿は11軒であった。1999年8月、商工局に登録された民宿は27軒に増加した。2001年には、不完全な調査ではあるが、民宿は66軒となった。2003年まで、観光産業の発展を通じ、麗江における交通、通信、市政などのインフラは著しく改善され、商業貿易、金融保険、文化娯楽などの各産業も急速に発展した。また、観光産業に、多くの失業者は再就職できた。1995年から2003年まで、麗江は失業者が17,877人であったが、観光産業を通して再就業した人は10,024人であった⁸。

(3)観光政策

1978年末の改革開放政策の実施以来、徐々に国内や国外からの観光客が麗江を来訪し始めた。そして1985年6月、麗江は「対外国人開放地区」に指定され、外国人旅行者の本格的な受け入れが始まった。麗江の観光産業が真に発展したのは90年代からである。90年代に麗江は「旅の先導」という発展戦略を確立した。この時期では、麗江は観光産業のインフラが大幅に強化され、都市建設が本格化した時期である。1992年3月、観光産業を有効に開発するため、麗江地区観光事業管理委員会が設置された。雲南省政府は1994年10月に麗江で「雲南省西北観光計画会議」（滇西北旅游規劃会）を開催し、「旅游大省計画」を策定した。この計画では、雲南省西北地区を「重点観光開発地区」とし、なかでも麗江を東南アジア・アジア太平洋地区における国際観光都市として重点的に開発することが示された。同年、麗江政府が「麗江地区旅游業管理暫行規定」を発表し、観光産業に

関する規制条例を生み出した。1996年に、玉龍雪山観光エリアを合理的に開発・保護するため、「麗江玉龍雪山観光開発区管理委員会」を設置した。1996年12月10日から、「麗江地区旅游事業管理委員会」は「麗江地区旅游局」と変更され、麗江政府28の行政機関の一つになり、主に麗江全体の観光産業を監督、管理などを行っている。「麗江地区旅游質量監督管理所」は1996年に設置され、麗江における観光企業の商品価格、質量などの監督を行っている。同年10月に、「麗江地区観光研修センター」が設置され、観光ガイドとホテル従業者などの観光業従業者向けの観光研修クラスを設置された⁹。1996年7月、観光市場を有効に管理するため、中国旅游局と雲南省旅游局、公安、工商の配置によって、麗江政府は「観光市場の専門治理と協調グループ」を設置し、麗江の観光市場を協調・管理する。

1994年に、麗江で開催された「雲南省西北観光計画会議」（滇西北旅游規劃会）において、雲南省政府は麗江古城を世界遺産に申請することを決定した。1996年2月3日に、麗江をマグニチュード7.0の地震が襲った。震災を一つのきっかけとしてとらえ、悪化の一途をたどっていた都市景観を改善し、世界遺産にふさわしい都市空間として整備を行った。さらに、震災に伴う国際的な支援や報道の結果、それまで知名度のなかった麗江古城が国内外に広く知られることになった。震災翌年の1997年、重建計画を発展させる形で「麗江大研古城保護詳細規劃」が策定された。こうした経緯を経て、1997年12月4日、麗江古城はユネスコ世界遺産委員会により世界遺産リストへの登録が決定された¹⁰。

2002年12月、中国国務院の承認を受け、麗江は「麗江地区」から「麗江市」へ変更した。この行政区分の変更に伴い、麗江における古城保護に関する行政機構の枠組みを画期的に変更した。従来、世界遺産に登録されている麗江古城の保護行政は、麗江納西自治県人民政府城建局、文化局など複数の部門が、それぞればらばらに担当の業務を行うことで進められてきた。行政区分を変更するのに伴い、こうした縦割りの非効率な機構を改善すべく、古城の保護に関わる行政を一括して引き受ける組織として「世界文化遺産麗江古城保護管理局」を設立することとなった。環境の整備に関わる資金が不足しているため、2001年から、「古城による古城を守る」という理念によって、「麗江古城維持費」（麗江古城維持保護費）の徴収を始めた。ホテルの宿泊客一人一人に対し、チェックインにつき、30元（2007年からは80元）を徴収する。徴収した金額の40%は借金の返済、30%～50%は古城環境管理の専属基金になる。徴収方法は旅行会社、ホテルに委託して徴収することにした。

2003年7月2日に、世界遺産委員会は「三江並流」を世界自然遺産に登録することにした。同年8月30日、麗江納西東巴古籍が世界記憶遺産に登録された。1995年から2002年までの間に、麗江の観光接待観光客の数は雲南省のトップで、観光産業を中心とした第三次産業の増加値の割合は第二次産業を超え、麗江の支柱産業になった。この時期には、麗江の観光産業のインフラが大幅に強化され、都市建設の工事が本格化した。まず、交通インフラからみると、1995年7月、麗江空港が開航した。麗江空港の運航は「麗江の観光発展に翼を付けた」と言われ、麗江の観光産業に対して重大な意義があると指摘された¹¹。1995年、

麗江への入込観光客数は 84.50 万人となり、1994 年の 21.70 万人と比べ、増加率が 289.40% に達した。これは空港の運航とも関係があると考えられる。1999 年には、麗江空港の航便数は 2403×2 便で、1998 年に比べて倍増した。乗客数は 50.55 万人に達した。2000 年からは、大理—麗江間の道路の建設が始まった。1998 年 8 月からは、麗江—昆明、麗江—大理間の旅客バス線が開設した。2000 年までに、麗江は各種の観光バスが 419 台あり、観光バスの運転者が 494 人であった。2001 年 9 月 6 日、「玉龍」号は、麗江の石鼓港を出発し、70 分の航行を経て安全に虎跳峡港に停泊した。これは「長江の第 1 の航路」と呼ばれる。

2) 発展段階における観光産業の動き (2004 年～2012 年)

(1) 全体的な観光の動き

2004 年から 2012 年まで、麗江における観光産業の発展を示したのは表 3 である。「三つの世界遺産を持つ町」、「麗江モデル」、「世界博覧会」などにより、麗江の観光知名度は中国全国、ひいては世界に広がった。2004 年から麗江における観光産業は飛躍的に発展し始まった。また、「観光の大衆化」を進めることにより、観光客数が急激に増加した。1995 年にはわずかに 84.50 万人であった観光客数は、2004 年には 360.20 万人に激増している。2012 年には、観光客数が 1599.10 万人となった。観光収入は 1995 年の 3.30 億元から 2012 年の 211.21 億元に増加し、60 倍以上も増加した。山村 (2007) は、観光客を誘致して経済効果を得るという目的において、麗江は中国はおろか世界的にも稀に見る大成功の事例といえることができると山村が指摘している¹²⁾。

表 3 2004 年～2012 年麗江における観光産業の発展

年	観光客総人数 (万人)	増加率	国内観光客 (万人)	増加率	海外観光客 (万人)	増加率	観光総収入 (億元)
2004	360.20	19.50%	351.00	19.70%	9.21	11.80%	31.80
2005	404.40	12.20%	386.00	10.00%	18.28	98.50%	38.60
2006	460.10	13.80%	429.20	11.20%	30.87	68.90%	46.30
2007	530.90	15.40%	490.90	14.40%	40.07	29.80%	58.20
2008	625.50	17.80%	587.90	17.90%	46.58	16.30%	69.50
2009	758.10	21.20%	705.60	21.90%	52.59	12.90%	88.70
2010	910.00	20.00%	848.80	20.30%	61.14	16.30%	112.50
2011	1184.05	30.00%	1107.93	30.50%	76.12	24.50%	152.22
2012	1599.10	35.50%	1514.40	36.69%	84.70	11.27%	211.21

資料：『麗江統計年鑑』2005 年—2013 年各年版より。

(2) 観光産業の動き

2006 年まで、麗江の旅行会社は 34 に増加し、ガイドは 4698 人となった。星級ホテルは 200 軒となった。観光スポットは 21 に増加した。統計により、観光産業に直接的に従事している人数は 4 万人であり、間接的に従事している人数は 8 万人に達した。2009 年、インターコンチネンタルホテルズが麗江で開業した。また、プルマンホテル、東河哈里谷

国際酒吧街などのプロジェクトが積極的に進められた。2009年12月27日に、シートリップ（Ctrip：携程）は麗江で子会社を設立した。また、2002年から2007年の間に、9.8億元が投資され、古城内の衛生、通信、交通、水道、電信などを改善された。例えば、古城内のトイレ22個を改造し、外観は古城の姿を留める同時に、中の設備は現代化した。また麗江都市総体規制と「麗江古城国家歴史文化名城保護規制」により、古城内と周辺の調和を欠く建物が移転された。古城内にあった麗江機床場（現麗江機床有限責任会社）を古城から新区に移転し、都市における旅行、娯楽、ビジネスの区分は以前より明確になった¹³。

この段階では、麗江における観光不動産が急激に発展している。古城内の民宿は増加したものの、観光客の増加スピードには追いつけなかった。そのため、新たな大型宿泊施設が古城内に建設され始めた。これは古城の元の建物との入替となり、地元住民の流出を引き起こした。2004年8月まで、麗江古城の周辺は不動産プロジェクトが9件存在した。麗江観光産業の発展により、麗江古城および古城周辺は不動産開発のブームに沸いた。呉（2007）によると、観光客の20%が麗江に不動産を買いたいと思っていた。その理由は2つに分けることができる。一つは麗江の生態環境と文化的雰囲気が入り、居住を求める。もう一つは麗江は観光価値を持ち、不動産の付加価値を増加する可能性が高いという思惑からである¹⁴。

表4 2004年の麗江における旅游不動産項目

不動産項目	規模（アール）	目標市場	間取り
滇西明珠	2000	地域外人	別荘
束河茶馬古鎮	11334	地域外人	店舗、民宿
国大花馬步行街	1100	地域外人	商店街
玉河走廊	360	地域外人	店舗
南門小区	1300	当地	別荘、マンション
香格里拉苑	800	当地	別荘
雲杉金凱商業広場	800	地域外人、当地	ホテル、店舗
瓜玳国	447	地域外人	別荘ホテル、商店街
麗水商城	113	地域外人、当地	店舗

資料：呉其付「遺産地旅游房地產研究—以麗江古城為例」『城市問題』2007年第8期（3頁）。

表4によると、不動産開発は、地域外の人向けの不動産業を中心として増加がみられる。それと同時に、観光産業により収入が高くなった当地住民も不動産への投資を始めた。2003年に、官房集団は麗江で雲南省初の観光用不動産—滇西明珠リゾートホテルを建設した。2005年、シンガポールのバンヤンツリーホテルははじめての中国進出として麗江を選んだ。2008年、香港瑞安不動産は80億元を投資し、麗江市玉龍県拉市海における120万平方メートルの新農村リゾート地を建設した。2005年には、麗江古城湖畔国際ゴルフ場が開業した¹⁵。観光産業の発展にしたがって、経済活動を目的として外部から流入人口が増加した。とくに麗江古城に外部の経営者が急増した。袁によると、2014年麗江古城中心地区沿道建築の使用状況は、住宅の割合が僅かに2.1%であったのに対して、商業用の割合

が 95.7%であり、さらに観光商業率が 94.0%であった。古城内の商業化の明確な進展があった。このような事態を重視した麗江政府は、先住人口の比率を回復させようと、世界遺産登録以前から古城に戸籍を持つ住人に対して、毎月一人当たり 10 元の補助金を給付する「惠民政策」を実施した。しかし、民居を賃貸すれば、月当たり数千円の家賃が見込める。そのため、「惠民政策」はほとんど効果がなかった¹⁶。また、観光客数の急増にしたがって、観光地は負荷が高まり、自然環境の破壊、地元住民と観光客の衝突も引き起こした。

麗江の民族文化産業もこの段階に成長段階に入った。2004 年、麗江は「文化旅游名市」、「文化立市、旅游強市」という戦略を明確にした。2013 年には、「建設世界文化名市、着力打造文化硅谷」の発展戦力を策定した。2006 年、麗江人の和献中は麗江玉龍雪山印象旅游文化産業有限公司を創設し、中国において有名な監督である張芸謀を招き、「印象麗江」という演劇文化ブランドを作った。「印象麗江」は玉龍雪山を背景とし、500 余りの当地農民が出演する。演出の服飾は当地の民族服装場から調達し、馬は当地の農民より買う。晏(2015)¹⁷によると演劇に出演する前の当地の農民は固定収入がなく、一年の収入は 5000 元ぐらいであったが、出演する農民たちの収入は毎月 2000 元～3000 元であり、家庭の生活状況を大いに改善した。このように、民族服装場、馬の養殖、農産品と演出の産業チェーンを形成し、ある程度の文化産業クラスターが形成されていると考えられる。2011 年、麗江玉龍県の和四強は麗江玉龍県納西源民族文化産業有限責任公司を設立した。会社は民族民間歌舞を中心としている。2014 年に、宋城「麗江千古情」が開業してから、業績はますます増加している。2015 年、宋城「麗江千古情」は 496 万人の観光客を接待し、売上は 1.9 億元に達した。2016 年には 2.23 億元の売上となり、増加率は 30%である¹⁸。文化演劇は当地や観光客が麗江文化への重視度を高めることができる。また、麗江の観光の魅力も上昇させた。表 5 は麗江における演劇の概要表である。

表 5 麗江における演劇

企業	演劇名	成立時間	内容
宣科納西古楽文化有限公司	納西古楽	2000 年	納西古楽
麗水金沙演劇有限公司	麗水金沙	2002 年	少数民族舞蹈
麗江玉龍雪山印象旅游文化産業有限公司	印象麗江・雪山	2006 年	实景演出
麗江玉龍県納西源民族文化産業有限責任公司	納西印象	2011 年	生態歌舞
宋城演芸公司	麗江千古情	2014 年	歌舞ショー

資料：晏雄『麗江民族文化産業集群式発展研究』76 頁より。

この段階では、「農旅結合」の考え方が提出され、新たな観光農業も発展してきた。適切な地域における野菜、果物、医薬品、タバコ等の作物の開発を積極的に進めている¹⁹。2002 年に、国家衛生部はペルーからマカの導入を許可し、麗江は試行場所としてマカを植え始めた。試験栽培と普及などにより、2013 年、麗江におけるマカ産業は正式に発展し始まった。2010 年に、麗江におけるマカの栽培面積は 135ha であり、生産量は 600 t であったが、2015 年には栽培面積が 9621ha に増加し、生産高は 43295t となった。この急激な増

加は供給過剰を引き起こした。2013年、紫マカの価格は24元/kgであったが、2014年には110元/kgとなった。供給過剰と誇大宣伝に従って、価格は急激に下がり、2015年には10元/kgに下がった²⁰。

表6 麗江におけるマカの栽培面積と生産高

年	栽培面積 (ha)	生産高 (t)
2010	135	600
2011	344	1545
2012	1116	5022
2013	2520	11340
2014	4672	21026
2015	9621	43295

資料：楊仕梅等「麗江瑪咖産業發展現狀及対策」272頁を参考に筆者作成。

注:ha:1hm²(=10000m²)

また、麗江における雪桃業も産業化している。2004年、昆明新知図書城有限公司は麗江で麗江雪桃有限公司を設立した。会社は麗江の拉市鎮で450畝(ムー:ha×16)の雪桃模範植栽基地を建設した。また、7000の農家と協力契約をして、植栽面積は3000畝以上に達した。拉市における農家の30%は雪桃の植栽を通して収入が増加した²¹。2010年、雲南省国土資源庁、雲南農業大学と麗江政府は「玉龍県拉市鎮における1千畝の麗江雪桃核心区を建設する」との目標を提出した。昆明呈貢明先鋳業有限公司と玉龍県拓農雪桃基地は共同出資して瑞祥雪桃会社を設立した。また、雲南省農業大学の技術と当地農民の経験を結びつけ、1千畝の麗江雪桃核心区を建設した。現在、桃花を見る、雪桃を食べることも麗江の観光資源になった。また、ブルーベリー、バラ、ラベンダーなどの新産業もこの段階に発展してきた。麗江の観光資源もますます増加した。

(3)観光政策

2004年から2012年の段階には、麗江は観光市場の管理、観光産業の宣伝、産業・地域優位性を補完することを中心として、さまざまな条例、制度を策定した。2003年には、麗江市は「文化観光名市」を構築するという戦略を策定した。また「6大戦略」、すなわち、「文化立市、観光強市、水能富市、協和興市、人材推進、全面開放」を実行した。さらに、「三地」、すなわち「生態産業基地、クリーンエネルギー基地、国際精品観光地」の建設を推進している。また、麗江古城を核として、郊外の自然資源(風景区)を結び付けるといふ放射状の観光地空間整備:「一江(金沙江)、一湖(瀘沽湖)、一山(玉龍雪山)、一城(麗江古城)の観光ルートを構築し、景色を味わう単一な観光方式からリラックス、エンターテインメント、フィットネス、エキシビション、ビジネスによる総合的なリゾートをめざす整備を始めた²²。2004年3月18日、中国ユネスコ全国委員会の許可をもらい、麗江で「世界遺産論壇」を開催した。これは、継続性のある、国際的な論壇として、毎年行うことになっている²³。2005年の8月、麗江市第1次人民代表大会常務委員会第14次会議で「關於開展麗江世界遺産日活動已按研究弁理狀況の報告」が通過され、毎年12月4日は

「麗江世界遺産日」にすることが決まった。2005年麗江市旅游局は『麗江市旅游発展総体規畫』、『麗江市大香格里拉生態旅游圈旅游產品策劃』、『石鼓紅色旅游景区產品策劃』を策定した。また、『雲南省旅游条例』にしたがって、観光産業の管理規範を明確にした。さらに、法律に基づいて観光市場を有効的、長期的に監督・管理するため、2005年9月、麗江市旅游連合執法弁公室が成立した。同年12月26日、麗江市人民代表大会常務委員会が「雲南省麗江古城保护条例」と「雲南省納西族東巴文化保護条例」を公布し、世界文化遺産や世界記憶遺産の保護は法的な根拠があることを示した。2009年、『麗江市旅游宣傳促銷管理方法』が実施された。『麗江市旅游宣傳促銷管理方法』は観光客市場を拡大し、観光プロモーションの効果を高め、麗江市の観光産業を發展繼續させることを目指す。同年、麗江市旅游局は『関与認真落實雲南省旅游局首批旅游特色村開發建設加速推進鄉村旅游發展通知的通知』を配布した。『通知』により、農村観光の建設を促進した。2013年には、『麗江市高原特色農業發展計画(2013~2020)』を策定した。科学的に特色ある農業を模索し、観光産業との結びつきを通して農業の發展を促進する發展構想を提示した。その後、麗江は『麗江市高原特色農業精品莊園認定標準』、『麗江市高原特色農業精品莊園管理辦法』、『麗江市高原特色農業精品莊園專項資金管理暫行辦法』を公布した。これより、麗江の特色と優勢に基づいて、マカ莊園、雪桃莊園などの農業莊園の建設を始めた²⁴。

このような管理をすることで、麗江は魅力的な都市、行きたい観光地などに関してさまざまな賞を獲得した。たとえば、1998年に、「中国最值得去的十座小城市之首」、「中国人最令人向往的十座城市之首」、「地球上最值得光顧的100個小城市之一」の榮譽を得た。2005年に、「全球人居環境優秀城市」、「歐洲人最喜愛的旅游城市」の賞を獲得した。2008年には「國際旅游名城」、「中国最佳文化生態旅游目的地」、「中国十佳綠色城市」、2011年には「全国十佳宜游城市」、「最具幸福感城市」、「輝煌十一五最負盛名旅游城市」の称号を獲得した。

この段階は、麗江へのアクセスの改善を積極的に行う段階でもあった。2005年には、国家西部大開發の重要プログラムとして大理—麗江間鉄道が建設され始めた。2009年9月、大理—麗江間鉄道が開通した。大理—麗江間鉄道の開通により、麗江及び麗江周辺地域の観光産業が促進された。2010年1月1日、昆明—麗江間鉄道が開通した。郭(2011)によると、昆明—麗江間鉄道の開通は麗江の観光産業に大きな影響を与えた。鉄道は麗江への便利性を高めるとともに、旅行コストを下げた。また、鉄道も観光の一部分になったと郭(2011)は指摘している²⁵。2006年10月には、大阪からの観光チャーター便が麗江空港に到着した。この日本から麗江までの直通便の実現は、麗江を訪れる海外観光客、とくにアジア観光客の新しいトレンドを推進した²⁶。2012年5月には、麗江—香港間の直通便が開通した。同年9月、麗江—バンコク間の直通便も開通した。2013年4月、麗江—ソウル間の直通便が開通し、6月には、麗江—台北間の直便が開通した。同年10月は、麗江—シンガポール間の直通便が開通した²⁷。麗江空港はすでに雲南省第二の空港になり、中国西南部の観光における要衝空港となった。2008年には、麗江市内—泸沽湖間の観光環線

(256km) が建設され始めた。2011 年は、麗江—空港間 (13.7 k m) の高速道路が建設された。これは麗江の最初の高速道路であった。2013 年、麗江—大理間の高速道路が建設され、運転時間は約 4 時間から 2 時間に縮まった。

3)整理統合段階 (2013 年～現在) における観光産業の動き

2003 年から 2017 年まで、麗江における観光産業の発展を示したのは表 8 である。表 8 が示すように、2013 年には、麗江の入込観光客数は 2079.58 人に増加した。2015 年には 3000 万人を超え、3055.98 万人となり、2107 年は 4069.46 万人となった。この段階では、観光客の総数が依然増加を続けているが、その増加率は減少することになる。観光客の増加率は 2013 年から減少に転じ、2015 年には 14.72% に下がった。海外の入込観光客数の増加率も減少に転じ、2016 年には 1.11% に下降した。

表 8 2013 年～2017 年の麗江における観光産業の発展

年	観光客総人数 (万人)	増加率	国内観光客 (万人)	増加率	海外観光客 (万人)	増加率	観光総収入 (億元)
2013	2079.58	30.50%	1979.91	30.70%	99.67	17.68%	278.66
2014	2663.81	28.09%	2556.11	29.10%	107.70	8.05%	378.79
2015	3055.98	14.72%	2941.44	15.07%	114.54	6.35%	483.48
2016	3519.91	15.18%	3404.10	15.73%	115.81	1.11%	608.76
2017	4069.46	15.61%	3950.87	16.06%	118.58	2.40%	821.90

資料：2013—2015 は『麗江統計年鑑』2014 年—2016 年各年版より、2016 年、2017 年は麗江市旅游発展委員会のホームページにより、筆者作成。

この段階では、麗江市は「世界的に有名な文化都市を建設する」という理念を持ち、「革新、調整、緑色、開放と共有」という開発コンセプトを実施した。道路ネットワーク、航空ネットワーク、エネルギーネットワーク、水道ネットワーク、およびインターネットという「5 網」の建設は順調に進んでいる。2014 年 9 月、昆明と麗江間の「麗江号」列車が運行され、9 時間の運転時間が 6 時間 55 分に短縮された。2 つの場所の時空間距離が大幅に短縮された。さらに、麗江—攀枝花 (四川) 間の高速道路と麗江—香格里拉間の鉄道の建設も円滑に進んでいる。麗江—香格里拉間の鉄道の開通は中国西南部のホット観光地が繋がり、西南地域経済の発展を促進する意義を持っている。そのほか、麗江市寧浪県に位置している瀘沽湖空港は 2015 年 10 月に開設された。これにより、麗江は三義空港と瀘沽湖空港の 2 つの空港を利用可能となり、「一市二空港」の都市になった。また、麗江三義空港の乗客数は 1995 年の 1.9 万人から 2015 年には 485 万人に増加した。星級ホテルは 1996 年の 4 軒から 2016 年の 253 軒に増加し、国際ブランドホテル (たとえばヒルトンホテル、プルマンホテルなど) は 10 軒となり、古城内の民宿は 2000 軒以上に増加した²⁸。このように、麗江における観光インフラは全体的に整っている。

また、麗江における農業と観光業の結びつきも一層緊密になった。農産物の種類も観光

産業の影響を受けて変化した。たとえば昔はなかった晩生マンゴー、高原イチゴ、バラ、ラベンダーなど、高原独特であり観光産業にかかわる農産物の種類が増えた。2013年、麗江は『麗江市高原特色農業発展規劃』を作り、「農旅結合」の発展理念を明確にした。また、「4つの10億元の産業を育成し、10の高級農園を建設し、30の農園を建設し、10の主要な農産物ブランドを拡大する」という重要なタスクを展開し、麗江高原の特徴的な農業の発展方向を計画した。麗江は『麗江市高原特色農業精品莊園認定標準』、『麗江市高原特色農業精品莊園管理弁法』と『麗江市高原特色農業精品莊園專項資金管理暫行弁法』を公布した²⁹。「農家楽」を中心とした観光農業は花卉景観、果物狩り、農家民宿、リゾートなど数多くの種類に発展してきた。

また、この段階ではスポーツと観光との結びつきも強くなった。2017年11月26日には、麗江において国際マラソンが開催された。麗江国際マラソンは、麗江市党委員会と市政府が、国务院の「スポーツ産業の発展を加速する意見」に基づいて、麗江市の「スポーツ+観光」の発展を促進するために重要な措置である。マラソンを通じて麗江市の経済、社会開発、都市建設など重要な活動を選手に紹介する。2018年6月24日には、第二回の麗江国際マラソンが行われた。各地から1万2千人が参加した。26の少数民族が自分の音楽、舞踊を通して、選手たちを応援した。オープニングセレモニーでは、ナシ族の人々から最も誠実な祝福を伝えるためにナシ族の祝賀式典が特別に設定された。レースは麗江古城、束河古城、白沙古城など有名な観光地を含み、試合と同時に、麗江の魅力を展示した。その他、老君山を中心とするアウトドアスポーツも積極的に開発している。たとえば、クライミング、キャンプ、ゴルフなどの「スポーツ+観光」項目も進んでいる。療養観光とリゾート観光も麗江の新たな観光項目として、これから発展が考えられている。

情報化と科学技術の発展にしたがって、観光産業とインターネットなどの新産業との結びつきも求めている。麗江は雲南省で初めてのスマート観光情報のプラットフォームを作成した。また、「玩轉麗江」、「微麗江」などの電子商取引も普及させた。「微麗江」は『中国旅游報』により2014年全国スマート観光の優秀範例となった。麗江はスマート観光における重要な一步を踏み出したが、人材と投資の不足により、さらに力を入れなければならない。その他、近年、共享自転車（シェアサイクル、アプリを利用して道端に置かれている自転車をレンタルするというもの）、新しいエネルギー車などの新産業、新商品が勢よく進んでいる。観光産業とこれらの新産業との連携も重要な課題だと考えられる。

この段階では観光産業と他産業との連携は強くなったものの、質の高い連携はまだ不足していると言える。たとえば、花卉景観は新しい産業として発展してはきたが、麗江における花卉景観は機能と内容もまだ単一であり、経営のモデルは単純である。単なる花を見ることは季節の制限もあるし、観光客の参加度と体験度も低い。また、観光設備はまだ整備されていない。麗江市白沙鎮にあるほとんどの花卉景観は駐車所、トイレも整備していない。また、観光知識を欠く従業員、自営者が営業を行うため、粗放的に管理する花卉景観が多くて、持続性がなくなった。当地の住民と観光客の入園料も違うため（当地の住民

なら無料に入園できることもある) 観光客とのトラブルは常に起こる。質の高い産業を作るのが重要な課題である。

またこの段階では、麗江へのアクセスと観光施設の完備、観光資源の増加などにより、観光客の客層も広がった。観光客間のトラブルもよく起こっている。さらに、民宿、ホテル、ツアーガイドの数も盲目的に増加するため、悪質な価格競争も起こっている。たとえば、観光市場の「四黒」現象、すわなち「ブラックガイド」、「ブラック車」、「ブラック店」、「ブラック観光会社」も出現した。この「四黒」現象は麗江の観光市場を混乱させ、観光客の体験感を下げた。また、「零負団費」(zero and negative tour expense) (観光目的地の旅行会社が原価以下で客源地からの団体旅行を請け負い、ガイドに正規の報酬を払わずに、旅客の買い物のリベートを収入源とさせる行為) と「低価格団」の出現は麗江の観光市場を壊し、地元の観光ガイドと観光客の関係を悪化させた。たとえば、2014年に、麗江における観光客が消費をしなかったため、観光ガイドに怒られたことがあった。また、2016年11月11日の深夜に、ある観光客が夜食を食べていたとき、当地の人とケンカし、顔が変わるほど殴られた。このことはインターネットで強烈な反響を引き起こし、麗江イメージを破壊した。それに、麗江古城内の過度な商業化により、2017年2月25日に、国家旅游局は麗江古城に重大警告をした。この一連のことにより、麗江の観光地イメージは悪くなった。

この段階は、観光客の訪問シーズンの拡大努力や観光産業と他産業の連携が取られる段階であり、と同時に、環境問題、社会問題そして経済的問題が深刻になりはじめた。そのまま推移するに任せておけば、麗江の観光地ライフサイクルは停滞あるいは衰退段階に入る可能性が高い。

3. 持続的観光開発に向けた課題に関する考察

3-1 考察のフレームワークとしての概念モデル

1995年から現在まで、観光産業は麗江の支柱産業として麗江の社会経済の発展を促進した。観光ビジネス・経済の促進は麗江の発展に向けた有効な糸口であり、麗江のビジネスの基盤になっている。観光産業を通して、持続可能な地域経済へ導くためには図2が示したように4段階があると思う。まず、第1段階は観光経済振興である。この段階では、観光産業を積極的に発展させ、運送手段、宿泊などの観光インフラを拡充する段階である。観光産業の発展が地域経済発展の唯一の方法として、多くの観光客を誘致する。しかし、観光ビジネス・経済の推進が他の産業に波及して地方主体の自立的な経済発展へと向かうことは容易ではない。すなわち、地方においては観光産業が成功したとしても、そのことが直ちに地方の経済発展に結び付くわけでない。また、一度に多くの観光客が押し寄せることによる環境汚染、受け入れのための観光施設などの開発による自然破壊や生活環境の悪化の問題も起こす。

第2段階は観光振興ではなく、地域全体の経済にとって観光の役割を考え、地域の経済

循環という目標のために、観光産業とその他の産業をお互いに促進、連携する段階である。単一の産業に依存することは地域の発展に対して非常に危険である。特に観光産業は気候、災害などの影響を受けやすい。そのためには、地域経済の循環を目指し、観光産業と地元その他産業との連携を求めなければならない。

第3段階は、地域の環境、社会、伝統文化と経済の補完である。地域の長期的な安定・発展を続けていくためには経済だけではなく、その地域ならではの自然・環境、伝統・歴史文化及び社会発展も重要となる。観光産業を中心とした経済と社会・環境・伝統文化のお互い促進・支援は持続可能な地域発展にとって不可欠である。

第4段階はこれらに加えて、人材の発掘や育成、自然環境や伝統文化の維持・継承など幅広い地域資源の発掘と研磨が、地域産業の優位性を保つことにつながるため、地域経済・文化・社会・環境の連携を促進する上で教育が不可欠であることを示すものである。また、行政による有効な施策も地域経済の発展にとって重要である。地域の全体的かつ長期的な発展を把握し、効果の漏出がない政策を作成することが重要である。地域資源の有効利用、比較優位性の発揮は不可欠である。さらに、当地住民も含む各ステークホルダーがそれぞれの努力と協力によって、持続的観光開発全般に関する投資を推進していくべきである。政府、中間組織、企業及び住民が協働して、麗江地域の資源を有効に活用した財・サービスを生み出し、それを移出することで域内に資金を呼び込み、また獲得した資金が域内で循環し、自立した地域経済システムを作ることが重要である。こうした段階を示したのが第4段階である。こうした持続的地域観光開発の概念モデルを示したのが図2である。

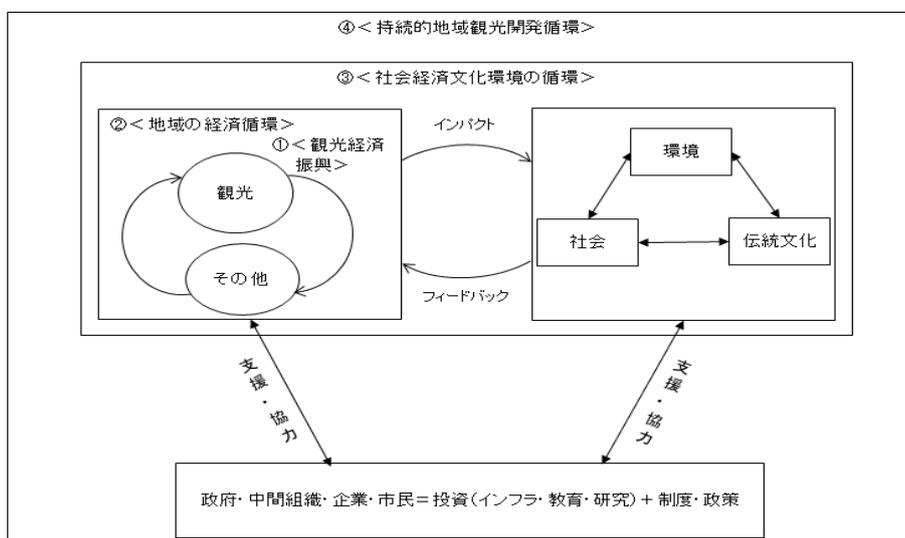


図2 持続的地域観光開発の概念モデル

3-2 考察

持続的地域観光開発の概念モデルの観点から、麗江におけるこの20年余りの観光の変遷を振り返り、問題点と課題および持続的な観光開発へ導くためのインプリケーションを考察する。

3-2-1 支柱産業の観光産業と関連している関連産業の連携、結合（地域の経済循環）

前述のような、単一の産業に依存することは地域の発展に対して非常に危険である。持続可能な地域経済を発展させるためには、地域全体の経済にとって観光の役割を考え、地域の経済循環という目標のために、観光産業とその他の産業をお互いに促進、連携することが大切である。麗江においては、ナシ族住民を主体として元々展開されていた農業と地元外からの人々による観光・サービス業が産業の中心となっている。麗江は1997年に世界遺産の認定によって国内外の観光客が急増したため、観光・サービス業が急速に成長した。しかしながら、2014年から麗江の経済発展の速度は遅くなり、GRPの増加率も4.6%に落ちた。そのうえ、2013年に、麗江への観光入込数の増加率も減少に転じ、また観光市場の混乱と供給過剰などの原因により、麗江における観光地ライフサイクルは整理統合段階に入った。そのため、地域振興を目指すのであれば、観光入込客の増加以上に、地域の生業づくり、雇用創出が重要である。その視点で考えることができれば、従来の観光に関連する事業、交通、宿泊、飲食、お土産品販売などにとどまらず、農業、建築、不動産、福祉医療など、多様な地域産業との連動の可能性が必要となる³⁰。これからは一時的な経済効果ではなく、観光産業とその他産業を連携・協力させ、麗江が地域の長期的な安定・発展を続けていくために持続的な観光開発へと転換していくことが必要である。

経済的にも重要であるのは単線的な観光開発依存型経済ではなく、農業や皮革業など麗江地元産業の高付加価値化や新たな企業創造を含めた産業構造の高度化を観光ビジネスを活用しつつ推進していく産業連関の構築が求められる。観光産業の推進は宿泊業、運輸業、飲食業、不動産業などのあらゆるサービス業に加え、麗江の地元の固有性を重視した農業、製造業との連携が不可欠である。工業化による経済発展に遅れを取った麗江は、地域を支える産業基盤の形成を求めて、特色ある自然環境や歴史的・文化的ストックを活用して観光産業を通して麗江の発展を促進した。しかしながら、雲南省のGRPランキングを見ると、麗江のGRPはまだかなり低い水準にある。現地調査により、この20年間の間に、麗江における観光産業と関連する産業は一層多くなったが、質の高い関連産業はまだ少ない。たとえば、農業と観光の結びつきは単なる食材の提供から農家楽、そして果物狩り、花卉景観、村リゾート観光などに拡大した。その中、麗江雪桃はすでに麗江の新たな観光資源になった。しかしながら、雪桃産業にはまだ課題と問題が残っている。まず、雪桃産業の栽培規模がまだ小さくて生産も集中していない。現在でも農家の自主的な経営モデルが中心であり、大規模化の生産モデルはまだ形成されていない状態である。また、生産技術も遅れている。雪桃の栽培と管理はまだ規範化、標準化されていない。化学肥料を使う場合も少なくはない。雪桃の質を向上させなければならない。雪桃の加工技術もまだ低いのである。現在の雪桃は生の桃を中心として販売しているが、保存期間や物流などにより、市場が広がらない。雪桃の再加工は緊急に解決しなければならない課題であると考えられる。その他、雪桃の生産、加工、買い付け、販売という産業ラインはまだ形成されていない。農家は雪桃を植栽したものの、どこに販売するかがわからず、観光客はどこで雪桃を買え

るのがよくわからないのが現状である。さらに、単純に桃を売るのではなく付加価値を高めるため、製造と流通のプロセスを付け加えることも重要である。

さらに、調査により麗江における伝統的な製造業も衰退している。たとえば、90年代に麗江の製造業を代表する麗江皮毛皮革場、麗江毛坊場は観光産業の発展により進展ではなく、衰退しているのが現状である。この原因は地域外企業の影響、人材の欠如、政策の影響などと考えられる。

多様な観光ビジネス・経済のシステム化したことによって、産業連携は地方の観光ビジネス・経済の高度化の推進にとって極めて重要であることは明白といえる。観光の優位性を発揮し、観光産業を牽引力として麗江経済の変革を目指す。観光産業を通して麗江の固有性と文化性を重視している農業、伝統製造業、文化産業を促進しなければならない。しかしそれは量だけを増やすことではなく、質の高い産業連携が求められる。また、新産業と観光産業の結びつきも望ましい。たとえば、電子商取引、シェアバイク、新エネルギー車と観光産業との連携は一層観光資源を広くさせ、観光産業の競争力と継続力を向上しうる。さらに、関連業種の連携・結合による複合企業的組織形態を地方において出現させることができるならば、外部の大手資本とも伍して競争することが可能となり、また地方内部での経済循環や雇用の創出にも大いに寄与することになると考えられる³¹。

3-2-2 社会文化環境と経済との循環

観光産業を中心としての地域経済を長期的に発展させるためには、自然・環境、伝統文化などの地元文化及び社会の発展が非常に重要である。地域経済と環境、文化、社会とはインタラクションがある。

まずは麗江における伝統文化の東巴文化の例を挙げて考察してみる。東巴文化にとって観光開発は保護・伝承を促進する作用を有す反面、東巴文化を消失・破壊する作用も有しており、正にもろ刃の剣であると捉えられる。このことは、東巴文字は本来、東巴教の東巴が代々受け継いできたものであり、東巴の数が減ってきているという現象は必然的に東巴文字の伝承が衰退化していくことを意味する。しかしながら世界遺産への登録など麗江における観光開発の隆盛は、東巴文字をはじめとする東巴文化の保護・伝承の再認識を呼び起こした面が少なからずみられた。また、東巴文化は特色ある観光資源として観光産業の発展を促進した。たとえば、麗江の玉水寨旅游集団は、東巴文化を基礎として、「生態観光」だけではなく、「文化観光」を加えることでより持続的に観光開発を進めている。一方、伝統の過度な商品化など、誤った利用は中長期的にみて観光開発に支障を来すばかりか非物質文化遺産そのものの内在価値や文化意義を低下させ、消失・破壊につながる可能性もある。現在過度な開発と地域外文化の影響から東巴文字の誤用による観光商品が顕在化していることである。資料により、2012年6月15日に、麗江市古城區政治協商委員会、古城區城市総合行政執法局、麗江市古城保護管理局などの部門責任者と民間トンパ伝承人合わせての18人が古城と古城周辺のトンパ文字看板を全面的に調査した。その結果、700

の看板の中で正しいのは35しかなかった。正確率は5%しかない³²。観光資源の核としての文化が歪曲・劣化していくことは、麗江の観光産業も持続的なものにならないだろう。

また、観光産業の発展にしたがって、さまざまな社会問題も起こった。たとえば、①交通渋滞や路上駐車増加など、交通環境が悪化している。②人が増えることによる騒音やゴミが増加している。③自然資源・歴史文化資源の破壊や過剰使用。④観光客の増加により治安が悪化している。それは住む人と訪れる人両方の満足度を減らし、経済発展の持続度も減らす。観光産業の発展より、麗江古城も過度な商業主義が浸透した。2017年2月25日に、麗江古城内の過度な商業化により、国家旅游局は麗江古城に重大な警告をした。また、観光客の急増にしたがって、観光地の無秩序な開発あるいは利用過多による弊害が麗江の多くの観光地の魅力を低下させてきた。麗江古城、玉龍雪山を含む麗江の多くの自然生態系の破壊は重要な課題になった。このように、観光による地域の自然・環境などへの負荷を軽減し、観光地の伝統文化を尊重しながら、観光収入が適切に地元還元されるような循環型の取り組みが求められる。

3-2-3 持続的地域観光開発循環

持続的地域観光開発循環を構築するためには、地域の長期的な発展に向かって政策、人材の育成、各階層への教育と持続的な投資が不可欠であると考えられる。ただ単に観光入込客の増加のみを求めるのではなく、地域住民を含み、観光産業と関連する各ステークホルダーが協働し、循環型の社会経済システムの構築に努めるべきであると考えられる。

(1)政府による制度・政策の策定・実施の協力と支援は持続的地域観光開発にとって不可欠である。まず、観光産業と地元その他産業の連携・協力を促進するためには、さまざまな産業を個別の振興政策として実施するのではなく、全体で相乗効果を発揮するための地域の全体的最適化を図る政策が求められる。そのためには、今までの狭義の観光産業振興策だけでなく、一次産業、二次産業、さらには土地利用や自然環境、町並み景観などを総合政策として実施することが必要である³³。2013年、麗江は『麗江市高原特色農業発展規劃』を作り、「農旅結合」の発展理念を明確にした。2016年に、麗江市旅游發展研究センターは「旅游+」という戦略を継続的に推進し、産業チェーンを麗江全域に広げるべきであると指摘した。これからの麗江は「旅游+新型城鎮化」を通じて、特色ある旅游都市化を促進する。また、「旅游+農業現代化」を通して、グリーンツーリズム、リゾート、特色農園などの現代新型農業形態の発展を促進する。「旅游+インターネット」によって、観光地の情報に自らアクセスが可能となり、観光に関する情報をたやすく入手できるようになっている。観光客は自らの旅行の内容をより充実させるべく独自性を追求し、多様な行動形態をとれるようになった。さらに、「旅游+創意」、「旅游+生態化」を促進する。文化とアートを中心として創意を通じて、産業連携を推し進め、飲食、宿泊などの観光要素の質も向上させる³⁴。しかし現地調査によると、麗江におけるある伝統製造工場は観光産業が発展して以来、政府の政策は観光産業を中心として、伝統製造業への支持はほとんどない

ようである。また、行政は政策の実施にも困難性があると言及している。そのため、産業連携に関する政策とその実施はまだ十分ではないことがわかった。また、地域外の企業及び資金の流入により、観光地化による利益が、地元ではなく、地域外部に還流している問題がある。その結果、地域住民側には経済的な面も含めさまざまなメリットが薄くなり、地元住民の満足度を低下させた。そのため、地域の全体的かつ長期的な発展を把握し、効果の漏出がない政策を作成することが重要である。さらに、麗江では過度な開発と過剰な観光客入込み数によって重要な観光資源である自然生態環境の破壊が進行している。その保全のためには、環境許容力を十分考慮に入れた科学的観光開発を、政府が規制措置を中心として厳しく実行していくことも重要である。その他、伝統文化の保護・活用にも制度・政策の支持が不可欠である。

(2)観光経済の競争は観光人材の競争であるとも言える。観光人材は観光産業の持続的発展の原動力である。人材の育成、雇用の確保は教育と緊密な関係性がある。麗江における観光産業の変遷を振り返ってみると、教育に関する課題はまだ数多く残されている。①観光産業に関わる従業員の全体的な教育レベルは低い。観光産業の発展にしたがって、観光産業に参加する人も数多く増加した。2016年に、観光産業に直接従事している従業員数は6万人に達し、間接的に従事している人数は約20万人となった。しかしながら、調査により、観光産業に従事している基礎管理スタッフと一般従業員は中学校（中等専科学校）と高校の学歴が主で86%を占める。大学卒の従業員はまだ少ない。従業員の素養の低下は観光客の体験度と好感度を下げた。現地調査によると、Aホテルは専門知識を持つ従業員の募集は非常に難しいとのことであった。そのうえ、近年ホテルや民宿などの宿泊施設の増加と観光客の減少により、ホテルは従業者の研修を行う資金を出す余裕がない。その結果、ホテル従業者の質はますます低下するため、ホテルの質もますます低下し、ゲストも以前よりさらに減少するという悪循環になった。農村観光の発展にしたがって、観光産業に参加する当地農民も増加している。けれども、観光や経営などの知識が不足しているため、観光客とのトラブルがよく発生し、自らの経営も持続的になりにくい。②人材の流失。調査によると、麗江における観光産業の従業者の流失率は20%に達した。そのなかで、自発的な辞職は59.5%を占める³⁵。その原因の一つは、観光産業の見通しについて心配があり、麗江における観光産業はこれからどのように発展していくのかがよくわからないという従業員が多いためである。もう一つは、観光業の平均収入は他の産業と比べ低い。収入は観光客の入込数などに依存し、不確実の要素が多い。さらに、地域外からの経営者、投資者は短期的な利益しか求めない者が多い。別の良い市場を見つけると麗江から出ていく者も少なくはない。③新技術、新産業人材の欠如。前にも述べたように、観光産業の特性及び持続的可能な地域経済を作るためには、関連業種の連携・結合は不可欠である。麗江も農業と観光産業、文化産業と観光産業、スポーツと観光産業の連携・結合などの新しい産業と発展方式を探求、実践している。さらに、インターネット及び他の先進技術を積極的に

観光産業に導入・応用することも観光産業の発展にとって非常に重要である。そのため、産業連携、産業融合の知識及び先進技術・理念を持つ複合型人才が必要になる。ユネスコアジア・太平洋地域の持続的な文化観光発展麗江合作モデルのコミュニティ教育・技術のモデルを参考にすると、麗江の観光教育・研究は短期的・長期的教育と公的・非公的教育を通じ、観光産業に関わる全てのステークホルダーを対象として実施することが必要であると考えられる。たとえば、公的な教育・研究としては農業と観光産業の研究所を設立する。農業及び観光産業の専門人材を誘致し、産業の連携と新産業の発見に結びつく教育を行う。また、非公的としては、民間的なホテル・民宿協会を成立して、観光収入の一部分を集めて教育資金として、宿泊施設の管理者と従業員に対して統一的に業務知識及び外国語の研修を行う。短期的な教育・研究としてはたとえば村で観光産業に参加する農民たちに地域に関する基本的事項を教えること。長期的には伝統的なナシ文化、東巴文化及び伝統手工業の教育である。文化は麗江の独特な観光資源として観光開発を促進する。とくに非物質文化遺産の東巴文化はそのイノベーション的創造によって観光資源のレベルや多様性をもたらすことも可能であり、それを新たな観光資源や新たな観光商品に結びつけることを通じて一層の観光開発や観光ブランド化を促進しうる。そのため、文化遺産を継承する人材の育成と伝統文化の理解に関する長期的な教育が重要である。このように、観光産業に関わる全てのステークホルダーに対して教育を実施することと各産業の連携と新産業の発見に結びつく教育・研究をあわせて実施することによって持続的な観光開発に導くことが必要である。

(3)持続的な地域観光開発を実現していくためには、各ステークホルダーがそれぞれの努力と協力によって、観光開発への投資と持続的地域全般の投資を推進していくべきである。観光産業の振興、観光産業とその他産業の連携、地域の自然環境、文化保護、人材育成、産業政策、永続的な地域計画、それに政策の形成、法制度や規則の整備と支援システムの整備に関する投資は欠くことができない。政府だけではなく、住民、企業、観光客など各ステークホルダーがそれぞれに関する持続的な観光開発のための投資をしなければならぬ。まず、観光インフラへの投資が不可欠である。観光資源の開発と観光形態の増加により、それに対応する交通インフラと観光インフラの整備も必要となる。譚（2018）³⁶により、観光農業の発展にしたがって、麗江における花卉産業と観光産業の連携もますます緊密になった。しかし、それなりの支援施設と専門的な人材はまだ十分ではない。たとえば、麗江における花卉産業のほとんどはインフラ整備が不完全であり、交通アクセス、駐車場、看板、レストラン、休憩所などが整備されていない。それは花卉産業と観光産業の長期的発展に対しては不利である。また、教育・研究への投資も必要である。いままで麗江における観光に関する従業員の素質は普遍的に低下している現状である。観光サービスの品質の確保と一層の向上を図り、良質のサービスを広く普及・定着させるためにも教育、人材育成の投資に注意を向ける必要がある。それは政府による学校の教育も重要であるが、企

業が職員の各能力を養成することも重要なため、企業は職員の育成とトレーニングに投資する必要がある。さらに、専門技術、専門人材の育成も大切である。たとえば、農業と観光産業、製造業と観光産業の研究所を作り、専門的な人材を育成する。それは観光産業の質を向上させると同時に、雇用の確保と人材の誘致にも役に立つと考えられる。さらに、持続的な観光開発を発展させるため、その地域の自然環境、産業政策、医療福祉、永続的な地域計画、それに政策の形成、法制度や規則の整備と支援システムの整備に関する投資は欠くことができない。

4.おわりに

本稿では地域の持続的観光開発に向けた課題を中国麗江市を事例として考察した。まず、麗江における観光産業の発展特徴を前提として、Butlerの観光地ライフサイクル・モデルを参考して1995年から現在までの麗江における観光産業の歴史的発展を三つの段階に区分した。それは1995年から2003年までの関与段階、2004年から2012年までの発展段階と2013年から現在までの整理統合段階である。その上で、各段階における観光産業の動き、観光政策、観光教育及び観光インフラの整備などの特徴を詳しく考察した。次いで、UNESCOのアジア・太平洋地域の持続的な文化観光発展麗江合作モデルを参考にした上で、麗江の実際と合わせて持続的地域観光開発循環の概念モデルを提示した。その上で、持続的観光開発を発展させるインプリケーションを考察した。結果として、①観光産業とその他の産業をお互いに促進、連携することが重要である。たとえば、農業や皮革業など麗江地元産業の高付加価値化や新たな企業創造を含めた産業構造の高度化を観光ビジネスを活用しつつ推進していく産業連関が求められる。また、新産業の電子商取引、シェアバイク、電気自動車と観光産業との連携も重視しなければならない。②自然・環境、伝統文化などの地元文化及び社会の発展と経済の相互補完が不可欠である。麗江の伝統文化である東巴文化は特色がある観光資源である。そのイノベーション的創造によって観光資源のレベルや多様性をもたらすことも可能である。一方、観光産業の発展は東巴文化の保護・伝承の再認識を呼び起こした面も多い。そのため、文化と観光産業との両立の仕組みが重要だと考えられる。さらに、環境、社会に良い観光産業の発展方式も重視すべきことが示唆される。③地域の長期的な発展に向かって政策、人材の育成、各階層への教育と持続的な投資に十分配慮する必要がある。政府は個別の振興政策として実施するのではなく、全体で相乗効果を発揮するための地域の全体的最適化を図る政策を策定することが重要である。また、短期的な利益ではなく、地域の全体的かつ長期的な発展を把握し、効果の漏出がない政策を作成することも重要である。持続的観光開発にとって人材の育成も不可欠である。たとえば、農村で農業と観光産業の研究所を設立する。農業及び観光産業の専門人材を誘致し、産業の連携と新産業の発見に結びつく教育を行う必要性があると考えられる。最後に、観光収入を地域内に再投資し、循環的な地域経済を発展させる仕組みも重要な課題であると思われる。

注

- 1佐藤(2003)を参照されたい。
- 2中崎茂 (1998 : 97 頁)
- 3小沢健一 (217-222 頁)
- 4楊国清 (2015 : 164-165 頁)
- 5『麗江年鑑 1995 年版』。
- 6 直接従業員とは、観光企業で従業している従業員。例えば旅行社、ホテルなど。直接に観光産業にサービスをする従業員。間接従業員とは、観光関連産業に従業し、観光客に間接的なサービスを提供する従業員。例えば、商業、郵便通信など。
馮学鋼、胡小純等『中国旅游従業理論与実証研究』2008年8月、安徽人民出版社。
- 7楊国清 (2015 : 166 頁)
- 8『麗江年鑑 2003 年版』(2003:196 頁)
- 9『麗江年鑑 1995 年版』(1995 : 201 頁)
- 10山村高淑・張天新・藤木庸介 (2017 : 27-29 頁)
- 11『麗江年鑑 1995 年版』(1995 : 203 頁)
- 12山村高淑・藤木庸介・張天新 (2007) を参照されたい。
- 13王佳・何継想 (2015 : 87-92 頁)
- 14吳其付 (2007) を参照されたい。
- 15李金鳳、李妍依依、楊功楠「麗江旅游地産開發研究」
- 16山村高淑・張天新・藤木庸介(2017)を参照されたい。
- 17晏雄(2015 : 76 頁)
- 18李四玉(2017:33 頁)
- 19『丽江年鉴 2014 年版』(177 頁)
- 20楊仕梅(2018)を参照されたい。
- 21『雲南日報』「麗江雪桃産業与旅游業互動發展」2007.09 を参照されたい。
- 22王佳・何継想 (2015 : 87-92 頁)
- 23『麗江年鑑 2005 年版』(214-217 頁)
- 24『麗江年鑑 2010 年版』
- 25 郭艶輝・陶穎 基于旅游者視覚的昆明—麗江鐵路与麗江旅游的關係研究 經濟研究導刊 2011 (26) pp90-93
- 26『麗江年鑑 2007 年版』(221 頁)
- 27『麗江年鑑 2014 年版』(281-285 頁)
- 28 和仕勇 (2017 : 10-13 頁)
- 29『麗江年鑑 2014 年版』(177 頁)
- 30白井冬彦 (2013 : 67 頁)
- 31伊藤昭男 (2017 : 76-77 頁)
- 32雲南网 (http://society.yunnan.cn/html/2012-09/13/content_2400786.htm) 参照されたい。
- 33日本交通公社『観光地經營の視点と実践』3頁.2013.12.10 丸善出版株式会社
- 34麗江市旅游發展研究センター.「開放型經濟下的麗江旅游供給側結構性改革研究報告」.2016年12月, 21頁。
- 35旅游従業人員現狀評価和成因的分析 麗江市古城区旅游局
- 36譚 (2018) 参照されたい。

引用文献およびサイト

(中国語文献)

- [1]郭艶輝・陶穎「基于旅游者視覚的昆明—麗江鐵路与麗江旅游的關係研究」『經濟研究導刊

- 』、2011年第26期、90-93頁。
- [2]和仕勇『丽江』、雲南人民出版社、10-13頁。
- [3]和一兰「关于实现丽江旅游跨越发展的几点思考」『跨越發展 麗江怎么弃』、麗江市党校 158-161 頁。
- [4]李金鳳、李妍依依、楊功楠「麗江旅游地產開發研究」
- [5]李四玉「麗江文化品牌成長性研究」『昆明冶金高等專科學校學報』、2017年第33卷第4期、98頁。
- [6]李秀春『见证丽江』、雲南美術出版社、2008年12月、11-12頁。
- [7]麗江市旅游發展研究中心「開放型經濟下的麗江旅游供給側結構性改革研究報告」、2016、21頁。
- [8]麗江市古城区旅游局「旅游從業人員現狀評估和成因的分析」。
- [9]麗江地区行政公署办公室『云南省人民政府丽江现场办公会文件汇编』2001年。
- [10]麗江地方志办公室『麗江年鑑』1995年—2014年各年版、雲南民族出版社。
- [11]世界文化遺產麗江古城保護管理局『世界文化遺產麗江古城保護狀況報告 1997-2007』、40頁。
- [12]王佳、何继想『文化与旅游融合发展』、雲南人民出版社、2015年7月第一版、87-92頁。
- [13]吳其付「遺產地旅游房地產研究—以麗江古城為例」『城市問題』、2007年第8期、33頁。
- [14]晏雄『麗江民族文化產業集群式發展研究』2015年、76頁。
- [15]楊國清『麗江文化旅游崛起解讀』雲南人民出版社、2015年。
- [16]楊仕梅等「麗江瑪咖產業發展現狀及对策」『現代農業科技』、2018年第3期、273頁。
- [17]『雲南日報』「麗江雪桃產業与旅游業互動發展」、2007年。
- [18]曾昆安『麗江旅游評述』、雲南人民出版社、2013年、61頁。
- [19]宗曉蓮「麗江古城民宿客棧業的人類學考察」『雲南民族學院（哲學社會科學版）』、2002年第19卷第4期、63-64頁。

(日本語文献)

- [1]伊藤昭男『観光ビジネス・エコノミクス概論』批評社、2017年、76-77頁。
- [2]小沢健一『観光の経済分析』文化書房博文社、1992年、217-222頁。
- [3]日本交通公社『観光地経営の視点と実践』丸善出版株式会社、2013年、3頁。
- [4]中崎茂「観光地域の発展と衰退—バトラーのライフ・サイクルモデルの紹介」流津経済大学社会学部論叢 第8巻第2号、1998年、97-111頁。
- [5]佐藤郁夫『観光と北海道経済』北海道大学出版社、2008年、9-11頁。
- [6]白井冬彦『「観光」を切り口にしたまちおこし地域ビジネスの進め方』日刊建設工業新聞社、2013年、67頁。
- [7]山村高淑・張天新・藤木庸介『世界遺産と地域振興中国雲南省・麗江こくらす』世思想社、2017年。
- [8]袁媛「世界遺産・中国麗江古城の居住環境の変容と持続可能性」森基金報告書、2014年、5頁。

(英語文献)

- [1]Butler, R.W, “The Concept of a Tourist Area Cycle of Evolution: Implications for Management of Resources”, *The Canadian Geographer*, 1980, Vol. XXIV ,pp. 5-12 (Butler(ed). *The Tourism Area Life Cycle*, Vol.1, pp. 3-12.)
- [2]Jane Jacobs. *Cities and the Wealth of Nations*, Vintage books, 1984.

(引用サイト)

- [1]麗江市旅游發展委員会ホームページ「2017年麗江市旅游接待情況」
(<http://www.ljta.gov.cn/html/infor/tongjixinxi/14731.html>、2018年5月参照)
- [2]麗江市旅游發展委員会ホームページ「2016年麗江市旅游接待情況」
(<http://www.ljta.gov.cn/html/infor/tongjixinxi/14126.html>、2018年5月参照)
- [3]雲南網 (http://society.yunnan.cn/html/2012-09/13/content_2400786.htm、2018年7月参照)